



一九九一年九月三日第三種郵便物承認毎月(二・三・四・五・六・七・八の日)発行

〈サロン・あべの〉1月の出会い

はつはるのシャンソンライブ



平成25年1月19日(土) 〈サロン・あべの〉1月の出会いは、育徳コミュニティセンター2階の研修室において、「はつはるの ションソンライブ」を開催しました。シャンソンを歌ってくださる山岸麻耶さんと、キーボード演奏の辻本貴子さんをお招きして、新年のライブを行いました。

・はじめに

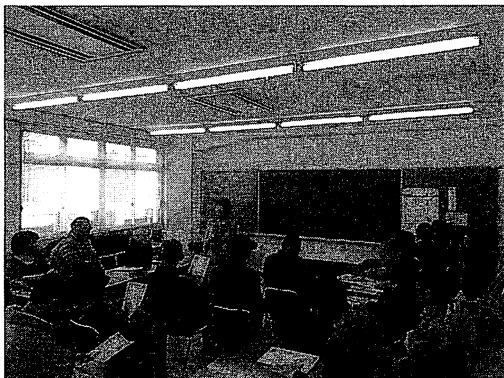
山岸麻耶さんには、ライブの進行と歌の内容などをお話をしていたいただきながら、シャンソンを歌っていただきました。

2年前にも、こちらに出席させていただきました。本日は、

2部形式で歌ってゆきます。まず、オープニングは「明日は月の上で」。アダモの名曲、私は人間が死んでいくところはこういうところではないか、という気がします。非常に明るく軽快な楽しいシャンソンです。アダモは「雪が降る」の作者で有名です。

・第一部 歳月(としつき)

私たちは毎日の暮らしを重ねていくうちに、月日が経ち、年が経ち、ということで生活が進んでいく。その短い歳月、長い歳月の中に人間は絶えず変化をしている。そのため小学校の同窓会等で会うと、随分と月日が経って人々にいろいろな変化が表れている。その変化がどうい



う風に表れてくるか、そこで歳月をテーマに歌を選んでみました。

1、「もう遅すぎる」

…時というのはどんどん流れていくのでタイムイングをつかまえないと遅すぎるころがある。後悔があるという歌。

2、「子供の頃」

…非常に幸せだった青春時代が、ある出来事（戦争）によつて、突然、暗転してしまうという歌

3、「擦り切れたレコード」

…長いながい歳月が経つと一体どういうことになるのかという話。これにはレコードがでてきます。そのレコードがあんまり歳をとつてどういふ風になるのか…、という歌。

4、「人生を唄う」

…皆さんは、いろんな人生の節目に生きてきたなつて感慨をもつことがあると思います。この歌は、40代位の歌手が自分の人生を舞台の上で歌うという歌。

5、「商売止めた」

…娼婦の歌。港町に住んでいて、とても気のいい娼婦がいたが歳月を経て、だんだん歳をとつて、どういふ娼婦になるか、という歌。

第2部 さけび、ささやき、モノローグ

シャンソンは、クラシックと違い（私の考えですが）、どんな声でも歌になる。クラシックはものすごく修練をつんでいるが、シャンソンの場合は、叫び声、独り言、つぶやくようなものであれ、全部音楽になる開放された歌ではないかと、思っている。シャンソンは誰でも歌える、というのはそういうことだと思ふ。特に修練をつんだ声でなくても、嘆いたり悲しんだりするときに歌う自然な声がシャンソン。

1、「ヴィアン・ムッシュユウ」

…娼婦の歌。娼婦の本音を歌つた歌。

2、「別れの歌」

…愛しぬいていた女の人はどうしても男についていけないで、別れを告げる歌。

3、「蛙」

…小さな子供たちにお話を聞かせるような歌。グリム童話の中の蛙という歌で、歌に出てくる蛙の正体は…。

4、「私の孤独」

…私の孤独に光が差し込んで来た。もう一人じゃない。じゃー誰と2人なのか。その内容は…、孤独が隣にいるという。

5、「抱きしめて」

…ジメジメとした何時も冬のような街の

中で、あなたの愛だけを頼りに生きてゆくよ、という、そういう女の歌。

6、「愛してあげて」

…こんな女がいたら男冥利につきる、すばらしい女の人が出てくる。彼を別の女性にとられた女性が彼のこと想う歌。

7、「アンコールは、懐かしい「テネシーワルツ」。

休憩の後、参加者に感想を聞きました。

「歌声に力があり、胸に響き、感激しました。」

「シャンソンは敷居が高い感じがしていたが、心の叫びを感じた。」

山岸麻耶さんには、今日のためにオリジナルのカラープログラムを準備していただきました。シャンソンを通じて、日本語の発音・発声の響きをとらえてメッセージを伝えられたらという気持ちで歌つておられると言つておられた山岸麻耶さんの歌声に魅了されました。「シャンソン」の中に歌の響きや歌詞に人生を伝える奥深さを感じた（サロン・あべの）1月の出会いでした。

（参加者33名 山村貴司）

美智子のこんな話

岸田美智子

「Fun (笑う) Fun (褒める)
Fun (愛する) Festival?!」

ある友達から、ブレイン体操をやってみない?と誘われました。このブレイン体操は、私も初めて聞いた名前でした。パソコンで調べたのですが、あまりに情報が多くてわかりませんでした。でも、教えてもらった情報によると、簡単に言うとな脳をほぐす体操みたいです。人間の健康は脳と心と丹田のバランスが上手くとれると元気になるし、幸せになれるそうです。その体操を推進している団体が、「Fun, Fun, Fun, Fun, Festival」を開催していました。それに参加してきました。この、フェスティバルでは“happy”という

映画が上映されていきました。この映画は、人間の幸せを求めてこの地球上を巡るドキュメンタリーでした。幸福度が一番高いといわれるブータンの国の紹介や、幸福度は経済の成長や物質的なものではなく、自然との関わり合いや、予測できない人生の不思議、そして愛する友達がたくさんいてくれることだと証明できる人物がこの映画の中でたくさん紹介されていきました。

いじめ問題や過労死や交通事故にあった人、そして中途障害者などの色々な国の人達が紹介されていきました。私はこの映画を観て、私達が障害者運動で社会に訴えてきた事の一つに、障害者の問題は人間のあり方を考える時の基準になるという考え方がありました。この問いかけとこの映画がつながっているような気がしました。

このフェスティバルでは、色々なおもしろいスピリチュアルな事もあり、私はオーラリーデインを受けてみました。私のオーラは紫で、直感的で想像力が優れているオーラだそうです。普通はもつと色々な色が混ざっているのに、私のオーラは紫一色なので靈感を育てていくと効果があるそうです。

なんだか不思議な感覚でしたが、何かが始まりそうな楽しさを感じた一日でした。今後の私は靈感がつくかなあ……。



子の親への愛情

断酒会という自助グループがある。アルコール依存症と闘う本人とその家族が集う自主的な会である。私はその断酒会をここ数年、研究対象にしているのだが、つい先日とても印象に残る家族の体験記をみつけた。それは昭和四九年に釧路市で開かれた「北海道断酒連合会・第四回全道大会」で発表された家族の話である。もう四〇年ちかく前に作成された資料は市販されることもなかったもので、知っている人も限られているだろう。そこで多くの人に知ってもらいたいと思い、ここに紹介したい。

それは札幌市の島山衣子さんの文である。「主人が断酒いたしましたして七ヶ月あまりになります」と始まる文章は、現在の幸せを報告することで終わるのだが、そこに至るまでには長い苦悩の日々があった。それは新婚生活当初からの夫の酒乱であった。その回想では特に当時小学四年

生と思われる一人息子の悲劇が語られる。漢字の一部を、ひらかなに直すなどして以下、長くなるが引用してみたい。

今年のお正月は、今年こそ飲まないぞと神様に近い、私と子どもに固く約束したのもつかの間、仕事始め早々に飲んでまいりました。子どもは、「お父さんはいくら約束してもダメだから、お母さんしばらくどこかへ行つたほうが良いかもしれない。するとお父さんはびっくりしてお酒をやめるかも知れない。お酒を止めたら、すぐに教えるから必ず帰ってきてね。ぼくはお父さんとがんばってみるよ。」子どもの精一杯の知恵だったのでしょう。そんなことを話している矢先、職場の方が酔った主人を車で送ってくださいました。朝までとことん飲むと満足なのですが、途中で帰ったものですから不満でならないようでした。突然に子どもの首をつかんで殺すと申します。一瞬、真つ青になった子どもは、静かな声で、「ぼくを殺したらお酒をやめてくれるの」と言いました。訳のわからない主人は、「うん、やめる。」「じゃ、殺してもいいよ。」・・・私はとっさに飛びかかり、主人の頭を床に押しつけました。子どもは「お母さんやめてちょうだい。ぼくを殺したらお酒を

やめるからお父さんをいじめないで」と父親をかばい泣くのです。(引用終わり) (注)

何度約束しても酔っ払ってしまう父を前にして「ぼくはお父さんとがんばってみるよ」と母にいう幼い息子は、もう死ぬことも覚悟していたのだろうか。だから父に首をしめられても、それを止める母に向かって、自分さえ死ねば、父も母も救えると考えたのかもしれない。

人間はあまりに辛いとき、自分が生きていても死んでいるような感覚になる。私は、この子が自分を殺そうとする父を受け入れたのは、心からのことだったと思う。幼い未熟さから死を受け入れたのではなく、極限の状況のなかで親に対する自己犠牲的な愛が雷光のように現れたのではないか。

現在であれば、トラウマ理論が流行しているのですが、この子がどのようなトラウマを持つようになり、この子の人生や人生観がどのように歪んでしまうのかを議論したがる人も多いだろう。

しかし、そんな議論は、この男の子の深い両親への愛に対する冒険であると思う。酔いつぶれ狂っていた男とその妻は、自分たちの幼い息子を通して「神仏のようなもの」を見たのだ。私にはどうしてもそう思えてならないのである。(知)

美智子のこんな話

岸田美智子

「Fun (笑う) Fun (褒める)
Fun (愛する) Festival?!」

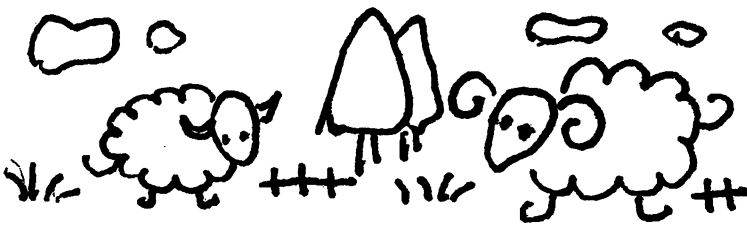
ある友達から、ブレイン体操をやってみない?と誘われました。このブレイン体操は、私も初めて聞いた名前でした。パソコンで調べたのですが、あまりに情報が多くてわかりませんでした。でも、教えてもらった情報によると、簡単に言うとな脳をほぐす体操みたいです。人間の健康は脳と心と丹田のバランスが上手くとれると元気になるし、幸せになれるそうです。その体操を推進している団体が、「Fun, Fun, Fun, Festival」を開催していました。それに参加してきました。この、フェスティバルでは“happy”という

映画が上映されていきました。この映画は、人間の幸せを求めてこの地球上を巡るドキュメンタリーでした。幸福度が一番高いといわれるブータンの国の紹介や、幸福度は経済の成長や物質的なものではなく、自然との関わり合いや、予測できない人生の不思議、そして愛する友達がたくさんいてくれることだと証明できる人物がこの映画の中でたくさん紹介されていきました。

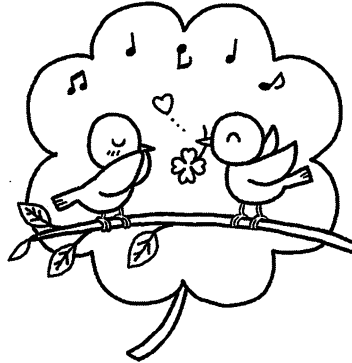
いじめ問題や過労死や交通事故にあった人、そして中途障害者などの色々な国の人達が紹介されていきました。私はこの映画を観て、私達が障害者運動で社会に訴えてきた事の一つに、障害者の問題は人間のあり方を考える時の基準になるという考え方がありましたが、この問いかけとこの映画がつながっているような気がしました。

このフェスティバルでは、色々なおもしろいスピリチュアルな事もあり、私はオーラリーデインを受けてみました。私のオーラは紫で、直感的で想像力が優れているオーラだそうです。普通はもつと色々な色が混ざっているのに、私のオーラは紫一色なので靈感を育てていくと効果があるそうです。

なんだか不思議な感覚でしたが、何かが始まりそうな楽しさを感じた一日でした。今後の私は靈感がつかなくなかなあ……。



(注：北海道断酒連合会(一九七五年)
道：創刊号(五〇号)三八五頁より引用)
『断酒



晴れのち晴れ

稲垣 恵雄

■巳年の年賀状

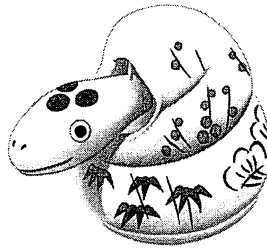
今年もまた大勢の人から年賀状をもらった。差出人を見ていると、初中会っている人からもらうのもうれしいが、遠方であまり会っていない人からもらうのも懐かしくて元気であることにうれしく思う。

当然ながらどの人の年賀状にも今年の干支の巳(へび)が印刷してある。だいたい巳は長いので気持ち悪いとか執念深いといつて不評だが、罅(とぐろ)を巻いた巳は上にのぼっていくので景気が良くなると喜ばれる場合もある。

それに巳年生まれの方は5人程知っているが、どの人も気はやさしくて賢明な人ばかりなので私は尊敬している。

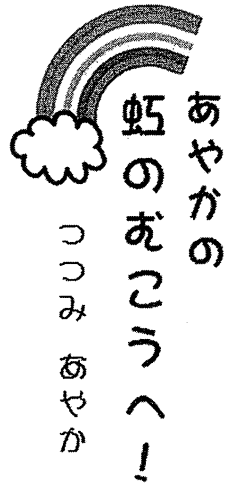
ほとんどの年賀状に近況を添えてあるが、そんな中で70才を過ぎた人から「昨年から水彩画を習い始めました」とか、また80才の人から「全身を動かすために、プールで泳いでいます」といった意欲的な近況にこちらは大いに励まされた。

更に小学校同級生のAさんの「だんだん年を取りますが、年を取るほど色んなことを知ることができ生きがいを感じています」という一文にハッとさせられた。それというのも私は年を取るに従い、全身が弱ってきて今まで出来て



たことがだんだん出来なくなったり、物忘れがひどくなったりして何も良いことがない、と思っていたからである。

このように今年の年賀状からいろいろ勇気づけられたり、前向きに生きていくことを教えられた。



臨死体験をしてしまう

現代芸術家グループの展覧会から帰って来た後も、自分の脳みその状態が常にフル回転の状態が収まらず、翌日休職延長届けを出すために出社する旨のメールを出した時も、どこか意味不明な事を書いた様な覚えがあります。

まるで、自動車のアクセルを踏み続けた状態で全然ブレーキが効かないみたいな感覚で、どこかでカーブを曲がりきれずに壁に激突してしまう様な恐怖感を覚えたまま、結局一睡もせず翌朝、会社に出社しました。

上司との面談の時、「私は、ひよつとしたら死ぬかも知れない。」と口走ったと思います。上司は「それでは、会社を退職するの？」と聞かれましたが、私は何とか「主治医と相談してからにしたいと思いますので、しばらくお待ち下さい。」と言うのが精一杯だった事を覚えています。

会社から出た後、私の友だちの一人で、精神

科の看護師の経験を持つ女性から、何故か携帯メールが来ておりました。

とにかく、私の事が心配だった様でメールをして来たみたいなのです。

夕方に私の家に立ち寄りたいたいの事で、私は、

彼女が来るのを待ちました。何だか一刻も早く来て欲しいと言う思いでいっぱいでした。

夕方、彼女がお見舞いに来て、今の私の状況について話をしました。

まもなく夜になり、彼女と色々な思い出話をしました。

いっしょに仲間と飲み会に行ったり、バーベキューパーティーを開いたりした話。彼女が沖繩の病院で働いていた頃、私が沖繩へ行って、色々な所を案内してもらった話。仲間の突然の訃報に驚き一緒にお通夜へ行った話。私の小さな頃の思い出話とか、彼女と色々な話をしました。

夜を徹して、色々な話をしている内に、そのひとつひとつの思い出が瞬時に鮮明に蘇り、そしてそのひとつひとつの思い出や人々との出逢いに意味があり何一つ無駄がない事を感じた途端にまるでジグソーパズルのピースがすべて埋まって自分の脳みその中の記憶が黄金色に輝いた様な感じを受けました。

その次の瞬間、私の身体の周りがとて柔らかくて温かい光に包まれた感じがしたかと思うと目の前に小さな半透明の卵が見えて来て、それに吸い込まれて行く感じがしました。

私の正体は妖精だった？

小さな卵に吸い込まれたと感じた後、何か水底に足が当たった様な感じがした途端、自分の呼吸に意識が移りました。

初めは、鼻に空気が入っているだけの状態から、喉の手前あたり、そして気管のあたり、やがて自分の肺に空気が入っていると言う具合に徐々に自分の身体の中に酸素が入っている感じがしました。

まだまだ意識が朦朧としていた中で、まるで鈴の音の様な「天の声」が聞こえました。

天の声は、私は、この世の中にほんの小さな優しさや安らぎを振りまくるために降りて来た妖精の様な存在であり、妖精の持つピュアな心を守り続ける為に男性の身体と言う鎧を付けて来たのだと聞こえた気がしました。

でも、その鎧も壊れてしまい、妖精の心が露出したままでこの世の中で生き続けていけるのだろうか？と言う不安と、まだまだ、この世の中で優しさを振りまかなければならないと言う



義務が残されている限りはこの世の中を去る事ができないと言う天の声の理不尽さに戸惑いを感じている内に朝がやって来ました・・・。
どうやら、私は、生きていると言うか、この世の中に置いて行かれた様な気がしました。
いっしょに夜を徹して話を聞いてくれた友達はそのまま寝ていました。
ふと、私が着ていたネグリジェの袖の臭いを嗅ぐと、妙な腐敗臭がしていました。とっさに洗濯機で洗いましたが、どうやら、私は生まれ変わった様です。
(つづく)

サロン・あべの毎月の感謝

○カンパ、宛名シール、お茶菓子、バザー用品等

のご寄贈、ありがとうございます。

仲田孝史、平岡太、福永洋、松本妙子、南順一郎、宮脇信子、その他(敬称略)

お知らせ

<サロン・あべの> 3月の出会い

- 内 容：スローライフの勧め
- お客様：森住明弘氏（民際学、NPO法人大阪ごみを考える会理事長）
- 日 時：3月16日（土）1時～4時
- 場 所：育徳コミュニティーセンター、研修室
[大阪市阿倍野区阪南町5-15-28
2階、スロープ、車イストイレ有、
TEL06-6621-1901]
- 材料費：200円
- 問合せ先：TEL・fax06-6691-1028
(富田慶子)



3月はどこのサロンの、
どのテーマが
お気に入りですか。
いい出会いしませんか。

■「サロン淀川」3月の出会い

日時：3月17日（日）午後1時30分～4時

内容：「今、被災地では」

同じ場所での息の長い支援を続けるために

進行：「サロン淀川」窪田新一さん

いわきーおおさか交流バス参加

場所：「やすらぎ」淀川区社協

大阪市淀川区三国本町2-14-3

会費：なし

問合せ先：淀川区社協 ☎06-6394-2900

■「ウイズ東淀川」3月の出会い

日時：3月10日（日）午後1時30分～4時すぎまで

内容：「音しずく、その後」

ゲスト：竹下八千代氏

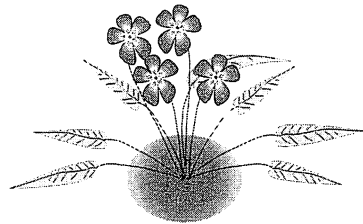
場所：NPO法人「自由空間倶楽部」

（東淀川区淡路5-11-17

阪急京都線淡路駅西口より6分）

会費：なし

問合せ先：☎06-6340-3082（鈴木昭二）



■「サロンにしよど」3月の出会いはお休みです。

■「サロンにし」3月の出会い

日時：3月26日（火）午後1時30分～3時30分

内容：障がい者と災害を考えよう！！

会費：なし

場所：西区民センター1階ホール

（西区北堀江4-2-7、☎06-6531-1400、

地下鉄千日前線「西長堀」駅7番出口へ）

問合せ先：宮脇淳 ☎090-3949-6973

■「サロンいたみ」3月の出会いはお休みです

<サロン・あべの>Vol.320 発行：平成25年（2013年）2月16日 定価¥100

編集人：<サロン・あべの>運営委員会 表題：中西利香・筆

事務局：〒545-0021大阪市阿倍野区阪南町6-3-26 富田慶子方<サロン・あべの>

TEL・FAX06-6691-1028

郵便振替口座：サロン・あべの00950-9-26941

印刷：セルフ社〒546-0044東住吉区北田辺町4-23-2 ミスターDビル2F06-6719-8212

ホームページ：http://pweb.sophis.ac.jp/oka/salon/ 「サロン・あべの」でも検索できます